

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：講演会 「世界のお友だち」
2. 実施者： 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン 松本謡子
3. 日時：2017 年 3 月 6 日①10:00-10:45、②11:00-11:45
4. 場所：①社会福祉法人野の百合福祉会めぐみ野保育園 新潟県南魚沼市西泉田 201-6
②認定子ども園野の百合保育園 新潟県南魚沼市六日町 1225 番地 1
5. 参加者：①3-6 歳園児 60 名、保育士 8 名 ②3-6 歳園児 70 名、保育士 7 名
6. 実施報告：

NGO相談員として、途上国の子どもたちを取り巻く課題について、写真紙芝居を使って紹介した。栄養のある食事が十分にできないこと、安全な水を使えないこと等を具体的に紹介し、幼稚園児の皆さんの日常とどのような違いがあるか、また、厳しい環境に生きる途上国の子どもたちがどのような思いで過ごしているかに思いを馳せた。途上国の子どもたちへ手を差し伸べる姿勢や幼稚園児の皆さん自身の不自由ない日常をふり返ることができた。帰宅後に保護者ととも途上国の子どもたちを取り巻く課題について話し合うことができるよう配布資料を用意した。終了後に園児数名が「嫌いな食べ物を残さない」「お友だちを大切にする」等の声を寄せてくれた。

7. 所感：

写真紙芝居を使用することにより、未就学児の皆さんに関心を持って話を聞いてもらうことができた。保育士から「こんなに集中して話を聞けるとは思わなかった」「普段の生活ではなかなか伝えることのできない内容を話してもらうことができ良かった」「毎日一緒にいる保育士から話すのとは違う特別なインパクトがあった」等の声をいただくことができた。日本に住む子どもたちが幼い頃から世界に目を向け、多様性の理解と共に生きる姿勢を身につけることは有意義な機会であると感じた。

8. 別添（写真）

左：認定子ども園野の百合保育園。右：社会福祉法人野の百合福祉会めぐみ野保育園



NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：まちづくり・市民活動交流会「まつやま NPO まつり」での広報
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（広報）】
2. 実施者：高山 莉菜（特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク）
3. 日時：平成 29 年 3 月 4 日（土）13:00～16:00
4. 場所：愛媛県松山市大街道 2 丁目（アーケード内）
5. 参加者：延べ 300 名
6. 実施報告：NPO の活動を市民に広く PR することを目的に開催される本イベントにおいて、ブース出展し、NGO 相談員ポスターの展示、チラシの配布を行った。さらに、来場者に対する個別の相談対応を 7 件行い、冊子「四国・国際協力団体と ODA」、「グローバル・ローカルかるた」を活用した情報提供を行った。また、NPO が自団体の活動を PR し、プレゼンを行う「NPO of the year 2016」への参加については、当日の受付ができなかったため、松山市内の NPO 団体の活動内容について情報収集を行った。

[主な対応内容]

- | | | |
|---|------|---|
| ① | 相談内容 | NPO と NGO の違いについて教えて欲しい。 |
| | 対 応 | 冊子「四国・国際協力団体と ODA」の情報を活用し、説明を行った。 |
| ② | 相談内容 | ESD の四国での取り組みにおける、ユースの関わりについて知りたい。 |
| | 対 応 | 2014 年に岡山市で開催された「ユニバ ESD 大会」（環境省中国四国地方環境事務所主催）以降、ESD、SDGs、国際協力、フェアトレード、環境活動などをキーワードに四国のユースがつながり、主体的に勉強会などを実施していることについて、関連資料を活用しながら情報提供した。 |
| ③ | 相談内容 | NGO 相談員制度とは何か。 |
| | 対 応 | チラシを活用して制度の内容について説明した。全国に相談員受託団体があり、当団体が四国ブロックの担当をしていることを紹介するし、無料で実施できる出張サービス制度についても情報提供した。 |

7. 別添（写真）



ポスター、かるたの展示



のぼり旗、チラシの展示

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：「NGO 相談員と語る！ 宮崎の国際協力活動のためにできること」及び宮崎県の国際協力機関等への広報活動（形態：広報・ネットワーキング）
2. 実施者：（特活）NGO 福岡ネットワーク
3. 日時：平成 29 年 3 月 7 日（火）13 時 00 分～18 時 00 分
4. 場所：NPO 法人ままでのて（宮崎市橘通東 4-8-1 カリーノ宮崎 9F 宮崎県国際プラザ内）など
5. 参加者：19 名
6. 実施報告：

本企画は、宮崎での国際協力の活性化を考えている関係機関が集い、NGO/NPO、行政・自治体、教育機関、企業、学生などの垣根を越えた連携・協働の可能性を探ることを目的に開催した。また、NGO 相談員の事業紹介を行い、認知度向上を目指した。さらに、みやざき NPO・協働支援センターを訪問し、NGO 相談員の広報を行った。

イベントでは、県内の高校生、大学生、地元 NGO、交流協会、大学教員、警察など幅広い参加者に参加していただくことができた。まず、NGO や NGO 相談員の説明を行うことで、九州地域で NGO 相談員が活動していることを知ってもらうことができた。またイベント後半には、各参加者が出会い交流ができる機会を目指し、「宮崎で取り組んでいる国際協力のこと」「取り組む上での課題」「必要とする支援やサポート」などのキーワードを使って自己紹介を行った。これにより高校生から NGO 実践者までお互いが考えていることや求めているニーズを知ることになり、活発な情報・意見交換を生むことができた。

また、本事業によって普段は交流会等に参加する機会の少ない NGO の代表者から出席をいただくことができた。これは NGO 相談員との交流を求めて参加したものであるが、結果的に相談員のみならず地元の出席者との交流が生まれることになった。このように、訪問地域の市民が出掛け・出会うきっかけとして NGO 相談員を有効に活用できることがわかった。今後も、地域の市民や実践者等の交流や、活動の活性化のきっかけや場作りとしての出張サービスを実施していきたいと考えている。

7. 別添（写真）



遠方から定員を超える参加があった



世代や所属を超えた積極的な会話が生まれた

平成 29年 3月 10日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名)公益財団法人PHD協会
理事長 水野 雄二

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企 画 名:「但馬農業高校での国際協力についての講演会及び交流」

※出張形態:講演

2. 出 張 者:今里拓哉((公財)PHD協会職員)

3. 実 施 日:2017年3月9日(水)10:50~12:40

4. 実施場所:兵庫県立但馬農業高校 (兵庫県養父市八鹿町高柳300-1)

5. 対象者:但馬農業高校 高校1年生・2年生 約200名

6. 実施報告:

但馬農業高校 1・2 年生を対象に国際協力とアジアの農村や農業事情についての講演を行った。但馬農業高校の理念の一つに、「地域に貢献する心を育む」がある。今年は実施時期が PHD 研修生の帰国直前ということで、「アジアの農村の農業事情」と「研修生たちの帰国後の計画」を生徒たちに伝えてほしいと担当教諭から依頼された。

始めに国際協力に関する概要と PHD 協会の活動を説明した。様々な国際協力の形があり、PHD 協会もその一翼として人材育成を通してアジアの農村を対象に活動していることを紹介した。

次にネパール、インドネシア、ミャンマー研修生を通じて、それぞれの村についてや日本での研修内容、そして帰国後の行動計画を紹介した。

ネパール研修生は出身村に医療従事者がいないので、帰国後は日本で学んだ応急手当を地域に広め、更に助産師として地域の健康を守ることを生徒に伝えた。インドネシア研修生は日本で「安心安全な食」が大切であると気づき、帰国後は有機農業に挑戦することを語った。最後にミャンマー研修生は軍事政権の影響で村には図書館がないことを紹介した。日本の子どもたちは幼いころから本に

親しんでいることを知り、村に図書館を作る計画を発表した。

最後に質疑応答があり、ネパールの農村部になぜ医療従事者がいないのか、ミャンマーの軍事政権下でなぜ積極的に本を読むことができなかったのかという質問があった。ネパールで医師や看護師・助産師の資格を持っている者は、村でクリニックを開業しても収入が少ないので、ネパールの都市部もしくは海外に出稼ぎに行ってしまうこと、ミャンマーの軍事政権下では海外の思想が自国に入るのを恐れて政府が読書を推奨しなかったことなどをお話した。

講演後、教諭から、アジアの村人が地域のために励む様子が、生徒にとって地域貢献への刺激となったという感想をいただいた。また、生徒からは、アジアの農村や農業について学ぶことができ、日本の地域おこしの共通点もたくさんあることを知ることができたとの感想をいただいた。日本の農村部とアジアの農村部には過疎化、高齢化といった共通の課題があり、アジアの村の問題点を知ることによって日本の問題についても考えてもらえ、またそれらの問題が根底では繋がっていることを知ってもらえたのは有意義であったといえる。

7. 添付画像:別紙に当日の様子を3枚添付



①講演会全体の様子



②研修生より村の紹介



③質疑応答の様子

2017 年 4 月 4 日

NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名： 「国際協力 NGO が果たす東日本大震災被災者支援における役割」

開催日時：2017 年 3 月 11 日（土）14 時～15 時

主催者： 東日本大震災救援実行委員会（代表：谷 公人）

場 所： ギャラリーサンムーン（京都府舞鶴市字浜 980）

出張者： （正・副・その他）特定非営利活動法人難民を助ける会 本多麻純

参加者数：約 30 名

実施内容：

報告では、当会が海外で行っている災害時の緊急支援をはじめとする国際協力活動を紹介した上で、そうした緊急・復興支援の経験を活かして、東日本大震災発災直後から現在まで行っている支援活動や、6 年間の被災地の状況などを紹介した。震災直後は行政までもが被災し混乱していた中、当会が 32 年間（2011 年当時）にわたる緊急・復興支援で蓄積した知識や経験を生かし、現地で行政と協力して支援活動全体の調整のイニシアチブをとったことや、災害時により困難な立場に置かれがちな障がい者や高齢者を優先的に支援したことなどを伝えた。

また、6 年経った今、被災者がどのような課題を抱えているか、今も現地で活動を続け密に被災者と接しているからこそ伝えられる現状を報告し、それらに対し今後どのような支援が必要とされているかなども伝えた。

参加者から寄せられた、「自分たちに何ができるか」という質問に対しては、国内外問わず、災害や紛争などで困難な状況にいる人々のことを忘れずに関心を持ち続け、被災者への理解を示すこと、また当会のような NGO が行う活動への参加や支援を続けることが、当事者として問題に関わることになることなどを呼びかけた。

所感：

東日本大震災の被災地に関する報道が減る中、現地で直接支援を続ける団体からの報告を伝えたことで、参加者の、国際協力 NGO が災害時から復興において果たす役割や被災地の状況に対する理解を深めることができた。また、京都府舞鶴市という東北から遠く離れた地にも関わらず、震災から 6 年経った今でも「何かできないか」という声が多く聞かれ、頼もしく感じた。一方で、中には支援をしたいが何も

できていない自分にストレスを感じている人が多い、といった意見もあり、当会のような NGO がさらに広く、世界各地での支援の必要性や支援活動への参加の方法を伝えていく使命があると再認識した。

今回の報告の様子は、事前の案内も含め新聞 5 紙（読売新聞舞鶴版、同京都版、朝日新聞京都版、毎日新聞京都版、京都新聞）で紹介された。NGO の活動について広く伝えることができた点についても、出張サービスを実施した意義を感じている。

講演場所となったギャラリーサンムーン



発表の様子



NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：春の民間助成金説明会&相談会（形態：相談対応サービス）
2. 実施者：山上正道（特活）AMDA 社会開発機構
3. 日時：2017年3月15日（水）13：30～17：00
4. 場所：鳥取県西部総合事務所 講堂（米子市糺町 1-160）
5. 参加者：100 名
6. 実施報告：公益財団法人とっとり県民活動活性化センターが開催した「春の民間助成金説明会&相談会」にて、NGO 相談員制度を始めとするさまざまな助成金・補助金等 NGO の支援制度を紹介を行い、相談会では相談員ブースを設置し、来場者への相談に対応した。

説明会では、社会課題の解決をめざす全国的な助成プログラムや民間非営利団体の資金調達手法の最近の動向について報告するとともに、様々な民間助成制度及び、鳥取県による各種補助金等の説明が行われた。説明会後は各助成金、補助金及び、NGO 相談員のブースが設置され個別相談会が行われた。個別相談では、6 名の相談に対応し、外務省による NGO 相談員制度とそのサービス内容、助成金・補助金等 NGO の支援制度を紹介した。国内支援を主な活動とする NPO の参加者が大多数であったが、事務局運営や広報・資金調達など NGO と共通する相談も多く、NGO 相談員のサービスが地方の NGO/NPO 組織の運営能力の底上げ・強化に寄与できると考える。また、海外への支援等も視野に入れている団体もあり、地方発の NGO/NPO による ODA の優良案件の発掘につながることを期待したい。

7. 別添（写真）



平成 29 年 4 月 5 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名)認定 NPO 法人 IVY
代表理事 枝松直樹

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告致します。

記

1. 企画名 IVY 中東理解講座「難民を知るワークショップ」
2. 【形態:相談対応サービス・講演・セミナー・その他(ワークショップ)】
3. 出張者氏名:安達三千代・阿部眞理子
4. 依頼元／主催等団体名:認定 NPO 法人 IVY
5. 実施日時:平成 29 年 3 月 28 日(火) 18 時 30 分～20 時 30 分
6. 実施場所:山形市市民活動支援センター 高度情報会議室(霞城セントラル 23 階)
7. 参加者:19 名
8. 実施内容:
9. NGO 相談員受託団体である弊団体は、山形市に本拠を置き活動している。地元山形市では、総会・活動報告会などで、2013 年からイラク・クルド自治区で弊社が行っている難民支援活動(JPF・N 連事業)について報告を行ってきたが、今回、弊団体の難民支援事業を元に JICA の元シリア協力隊員の協力を得て制作した「難民を知るワークショップ」を開催することになった。ファシリテーターが 2 人、コメンテーターが 1 人という布陣で臨めたこともあり、ワークショップをゆっくり進めることが出来た。
ワークショップ後半では、1 月下旬から 2 月初旬にかけて渡航した安達が、写真を見せながら、4 回目となった難民への越冬支援や補習校・公立校開校を行っている教育支援(N 連・JPF 事業)を紹介し、ODA や日本の国際協力活動について現在の現地の状況を織り込みながら説明を行った。
プレスリリースを行ったところ、マスコミ 3 社(テレビ 2 社、新聞 1 社)が取材に訪れ、テレビ、新聞で、当日のワークショップの様子と現地での支援状況について報道されることになった。

10. 所感

地元山形で初開催となり、年度末で当初参加者の集まりが悪かったが、新聞社が告知を出してくれたこともあり、19 名の参加となった。参加した方々からワークショップの改善点についても指摘があり、今後更にバージョンアップを図り、出張サービスに活用出来るようにしていきたい。

＜参加者アンケート＞抜粋

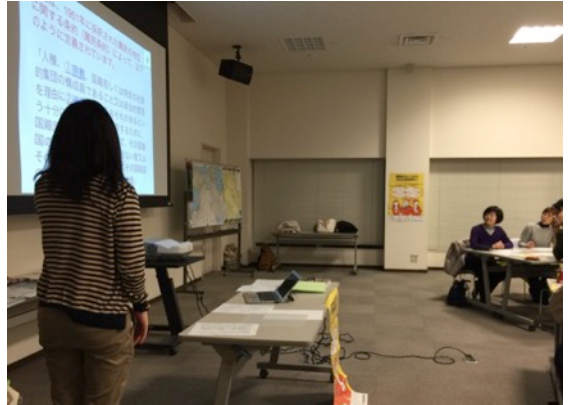
追体験をするような形で進められていたので、より深く考えながら参加することが出来た。

難民という言葉聞いたことはあっても、定義について全く考えたことが

なかった。初めて知ったことがたくさんあったので、勉強になった。
ただ逃げるということが、実はなかなか難しいのだと初めて気付きました。
難民の家族になるシミュレーションを体験したことで、難民についてより
深く理解することが出来た。
難民と国内避難民の違いを知りたいと思った。
実際に難民の人にとって、何が必要なのかを考えた支援が必要。



NGO 相談員制度、ODA などの
紹介を行っているところ。



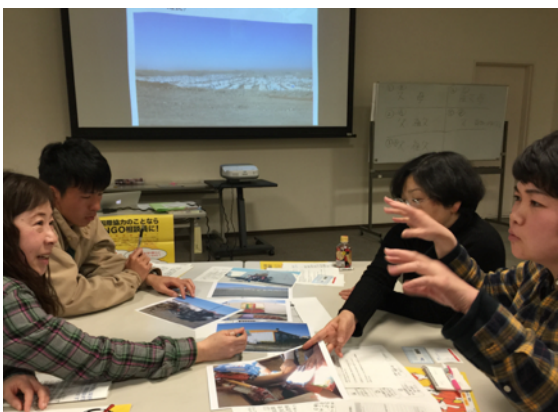
NGO 相談員制度、ODA などの
紹介を行っているところ。



家族の誰を置いて逃げるか、
を考える場面



(模擬) 難民申請を行っている
ところ。



キャンプについてからの生活に
ついて話し合う参加者。



N 連、JPF 事業であるイラクに
おける難民支援について説明。